

第2章 本市の現状

1 本市の概要

(1) 位置・面積

本市は群馬県の南西部に位置し、総面積は約180.29km²で、東側は埼玉県上里町や神川町、西側は甘楽町や下仁田町、南側は神流町や埼玉県秩父市、北側は高崎市や玉村町と接しています。

(2) 地勢

本市の南西部は、主要山岳である赤久縄山（標高1,523m）と御荷鉾山（標高1,287m）を有しているため標高が高く、北東へ行くに従って平地が広がっています。市街地を含む平野部は、三方を鏑川、烏川、神流川に囲まれ、南部には首都圏の水がめである下久保ダムを有しています。

(3) 気候

太平洋側気候であり、夏は比較的雨量が多く、気温、湿度ともに高くなります。冬は新潟県境や北部の山地を越えて乾いた風となって吹き降りる「からっ風」が強く吹き、気温の低い日が多くなります。

平野部の年間降水量は約1,000mmと比較的少なく、冬の降雪はほとんどありません。年間平均気温は約15℃と比較的温暖な気候ですが、標高差により、地域的に気象の違いがみられます。

2 本市の状況

(1) 人口、世帯数

本市における10年間の人口と世帯数の推移は次のとおりです。人口は年々減少傾向にあり、10年間で約4,000人減少しています。世帯数は、令和元年まで増加傾向にありましたが、その後は約27,600世帯でほとんど横ばいで推移しています。

表2 人口の推移

単位：人

平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	(年度)
68,616	68,506	68,194	67,596	67,001	
平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	
66,564	65,984	65,531	64,355	64,110	

出典：藤岡市住民基本台帳人口および世帯数

表3 世帯数の推移

単位：世帯

平成24	平成25	平成26	平成27	平成28	(年度)
25,955	26,281	26,486	26,573	26,841	
平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	
27,099	27,261	27,534	27,603	27,693	

出典：藤岡市住民基本台帳人口および世帯数

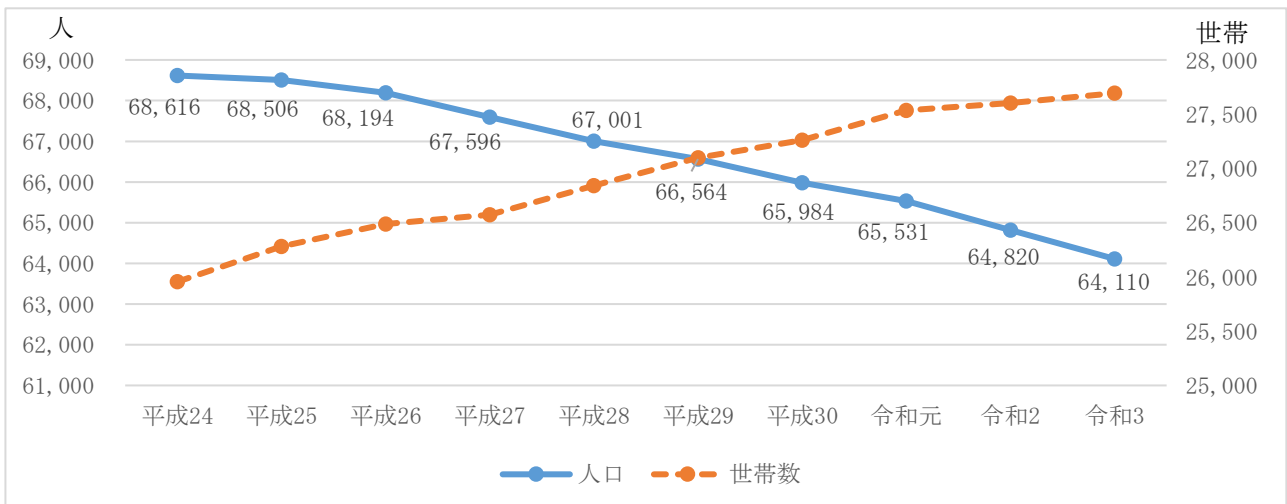


図2 人口と世帯数の推移

(2) 産業構造

■産業別従事者数

本市の産業別従事者数の推移は次の表のとおりです。業務その他が最も多く、農林水産業が最も少なく、各業種とも減少傾向となっています。

表4 産業別従事者数

単位：人

	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	(年度)
建設業・鉱業	2,316	2,316	2,316	2,316	2,035	
農林水産業	192	192	192	192	171	
業務その他	18,612	18,612	18,612	18,612	17,519	

	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
建設業・鉱業	2,035	2,035	2,035	2,035	2,035
農林水産業	171	171	171	171	171
業務その他	17,519	17,519	17,519	17,519	17,519

出典：「自治体排出量カルテ」（環境省）

■製造品出荷額

本市の製造品出荷額の推移は次の表のとおりです。年度ごとにばらつきがみられますが、近年は約2,700億円で横ばいで推移しています。

表5 製造品出荷額の推移

単位：万円

平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	(年度)
20,816,525	23,267,398	21,336,059	21,287,778	22,536,289	

平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
24,657,677	25,482,762	27,478,786	26,985,019	26,899,304

出典：「工業統計調査」（群馬県）

(3) 自動車保有台数

本市の自動車保有台数の推移は次の表のとおりです。旅客用自動車は平成26年度まで微増傾向にありましたが、その後は横ばいで推移しています。貨物自動車については、平成26年度から年々減少傾向となっています。

表6 自動車保有台数

単位：台

	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	(年度)
旅客	46,091	46,552	46,894	47,351	47,735	
貨物	13,504	13,350	13,078	13,044	13,104	

	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
旅客	47,602	47,377	47,687	47,638	47,651
貨物	12,883	12,814	12,779	12,640	12,584

出典：「自治体排出量カルテ」（環境省）

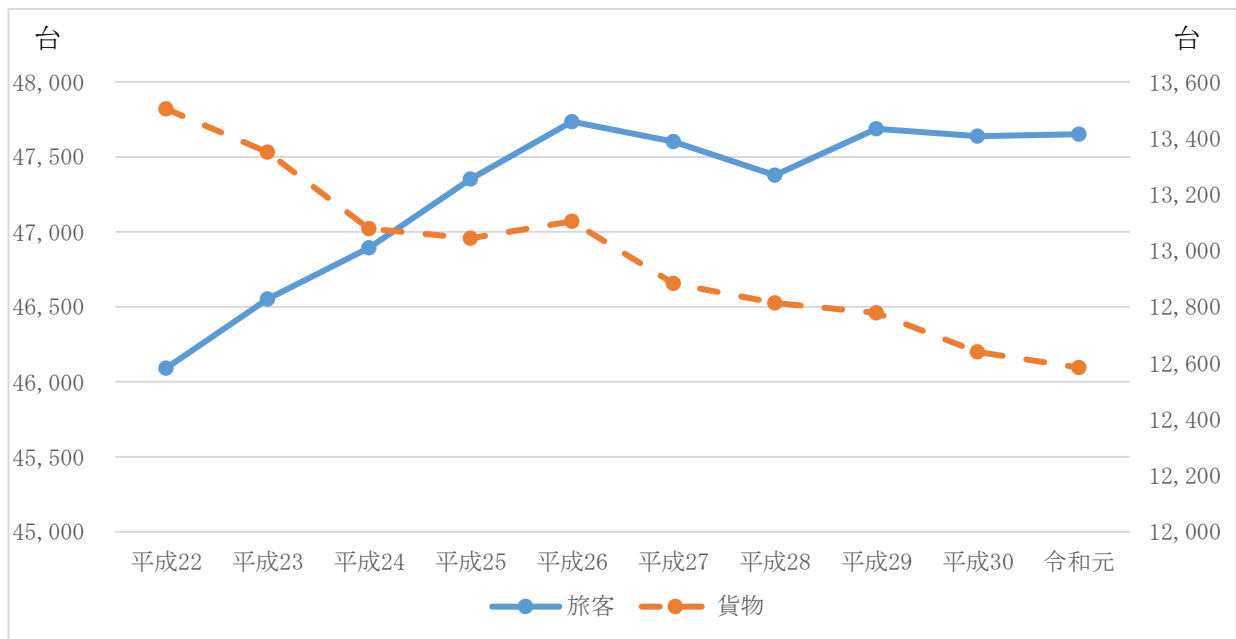


図3 自動車保有台数の推移

3 温室効果ガス（CO2）排出量の状況

本市における部門・分野別の温室効果ガス排出量の推移は、次に示すとおりです。

表7 部門・分野別の温室効果ガス排出量の推移

単位：千t-CO2

部門・分野	平成25	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元（年度）
合計	507	481	464	455	450	446	426
産業部門	156	136	131	138	141	140	133
製造業	145	128	122	129	133	132	126
建設業・鉱業	4	4	4	4	4	4	4
農林水産業	7	4	4	5	4	4	4
業務その他部門	94	85	85	71	67	66	63
家庭部門	89	93	86	86	83	87	77
運輸部門	157	154	152	148	146	143	140
自動車	152	149	147	143	141	139	136
旅客	87	83	82	81	80	78	76
貨物	65	66	65	62	62	60	61
鉄道	5	5	5	5	5	4	4
船舶	0	0	0	0	0	0	0
廃棄物分野（一般廃棄物）	11	13	11	12	12	11	13

出典：「自治体排出量カルテ」（環境省）より抜粋

本市域からの温室効果ガス排出量は、平成24年度をピークに減少傾向となっており、令和元年度の排出量は426千t-CO2と2013（平成25）年度比で16%削減するなど、順調に推移しています。

部門別に見ると、運輸、産業、家庭、業務その他部門の順に排出量が多く、廃棄物分野（一般廃棄物）は10千t-CO2強で横ばいで推移していますが、その他の部門については減少傾向となっています。

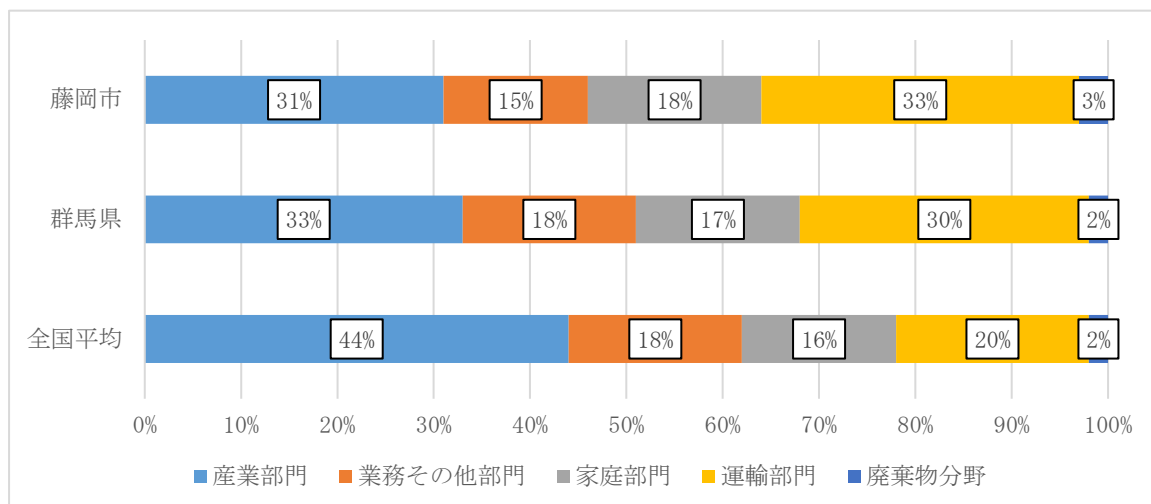


図4 部門ごとの温室効果ガス排出量（令和元年度）の比較

全国平均、群馬県、本市の部門ごとの温室効果ガス排出量の割合は、図のとおりです。群馬県とはほとんど同様な構成比となっていますが、全国平均と比べると、産業部門が全体に占める割合が低く、運輸部門が全体に占める割合が高くなっています。

4 森林吸収量の状況

(1) 森林面積

本市の森林面積の推移は次のとおりです。本市の森林面積は、国有林は増減しておらず、民有林は約10,260haで横ばいで推移しています。

表8 藤岡市の森林面積

単位：ha

	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	(年度)
国有林	228	228	228	228	228	
民有林	10,262	10,262	10,262	10,262	10,262	
合計	10,490	10,490	10,490	10,490	10,490	

	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
国有林	228	228	228	228	228
民有林	10,259	10,259	10,259	10,259	10,259
合計	10,487	10,487	10,487	10,487	10,487

出典：群馬県「森林林業統計書」

(2) 森林蓄積

森林の蓄積は次のとおりです。国有林、民有林ともに増加傾向にあり、針葉樹、広葉樹ともに増加傾向にあります。

表9 藤岡市の森林蓄積

単位：m³

	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	(年度)
国有林	42,014	42,014	42,014	42,014	42,014	
針葉樹	32,510	32,510	32,510	32,510	32,510	
広葉樹	9,504	9,504	9,504	9,504	9,504	
民有林	4,090,917	4,090,917	4,090,917	4,090,917	4,090,917	
針葉樹	3,667,595	3,667,595	3,667,595	3,667,595	3,667,595	
広葉樹	423,322	423,322	423,322	423,322	423,322	
合計	4,132,931	4,132,931	4,132,931	4,132,931	4,132,931	

	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元
国有林	45,321	45,321	45,321	45,321	45,321
針葉樹	34,022	34,022	34,022	34,022	34,022
広葉樹	11,299	11,299	11,299	11,299	11,299
民有林	4,343,251	4,343,251	4,343,251	4,343,251	4,343,251
針葉樹	3,895,632	3,895,632	3,895,632	3,895,632	3,895,632
広葉樹	447,619	447,619	447,619	447,619	447,619
合計	4,388,572	4,388,572	4,388,572	4,388,572	4,388,572

出典：群馬県「森林林業統計書」

※蓄積 森林資源量の目安。材木として利用できる幹の量。

(3) 森林吸収量

1年間で森林が吸収するCO₂の量を森林吸収量とし、推計方法を次に示します。

① 2時点の森林炭素蓄積量の比較を行い、その差をCO₂に変換する方法

$$\text{森林吸収量【t-CO}_2\text{/年】} = (\text{比較する年度の森林炭素蓄積量【t-C】} - \text{報告年度の森林炭素蓄積量【t-C】}) \div \text{報告年度と比較年度間の年数} \times \text{炭素から二酸化炭素への変換係数【-44/12】}$$

出典：環境省「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル（算定手法編）」

② 森林蓄積のデータを炭素蓄積に換算する方法

$$\text{炭素蓄積量【t-C】} = \text{森林種別の材積量【m}^3\text{】} \times \text{バイオマス拡大係数} \times (1 + \text{地下部率}) \times \text{容積密度【t/m}^3\text{】} \times \text{炭素含有率【t-C/t】}$$

出典：環境省「地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル（算定手法編）」

表10 樹種別の算定資料

	材積量 (m ³) (2019年度)	バイオマス拡大係数	地下部率 (1+)	容積密度 (t/m ³)	炭素含有率 (t-C/t)
針葉樹	36,888	1.32	0.34	0.352	0.510
広葉樹	3,216	1.26	0.26	0.624	0.480

②の計算式の場合は、算出された炭素蓄積量【t-C】をもとに変換係数である【44/12】を乗じた数値を森林吸収量とします。

①の計算式を使用すると、森林蓄積量が減少している場合は、排出として計上されるため、②の式を採用し、算定します。

これらにより算定した結果、本市の令和元年度の森林吸収量は、45千t-CO₂となります。

5 再生可能エネルギーの導入状況

本市における再生可能エネルギーの導入状況の推移は次のとおりです。

表11 種別ごとの再生可能エネルギー導入推移

単位：kW

	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	(年度)
太陽光発電 (10kW未満)	6,701	7,304	8,199	8,830	9,634	10,400	11,021	
太陽光発電 (10kW以上)	29,683	41,768	47,895	58,494	71,859	92,713	104,465	
風力発電	0	0	0	0	0	0	0	
水力発電	790	790	790	790	790	790	790	
地熱発電	0	0	0	0	0	0	0	
バイオマス発電	0	145	290	290	290	290	290	
再生可能エネルギー合計	37,174	50,007	57,174	68,404	82,573	104,193	116,566	

出典：「自治体排出量カルテ」（環境省）より抜粋

表12 種別ごとの再生可能エネルギー発電量の推移

単位：MWh

	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	(年度)
太陽光発電 (10kW未満)	8,042	8,765	9,839	10,597	11,562	12,481	13,226	
太陽光発電 (10kW以上)	39,263	55,249	63,354	77,373	95,052	122,637	138,183	
風力発電	0	0	0	0	0	0	0	
水力発電	4,152	4,152	4,152	4,152	4,152	4,152	4,152	
地熱発電	0	0	0	0	0	0	0	
バイオマス発電	0	1,016	2,032	2,032	2,032	2,032	2,032	
再生可能エネルギー合計	51,457	69,183	79,377	94,155	112,799	141,303	157,593	

出典：「自治体排出量カルテ」（環境省）より抜粋

※バイオマス発電は、現在事業者が市外に移転しているため、導入なし。

本市においては、太陽光発電（10kW以上）の導入が最も多く、平成26年度と比較して令和2年度では約3.5倍、10kW未満の太陽光発電についても、約1.6倍に増加しています。その他、中小水力発電等が導入されています。要因として、全国的に見ても日射量が豊富であることやゴルフ場跡地などの広大な土地利用が進んでいることが考えられます。